

# 上田市教育委員会7月定例会会議録

## 1 日 時

平成26年7月24日(木) 午後2時34分から午後4時36分まで

## 2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

## 3 出席者

### ○ 委 員

委 員 長	城下 敦子
委員長職務代理者	小市 正輝
委 員	山崎 順子
委 員	寺島 滋
教 育 長	小山 壽一

### ○ 説 明 員

西入教育次長、浪方教育参事、齋藤教育総務課長、倉島学校教育課長、岩倉生涯学習課長、浅野文化振興課長、滝沢スポーツ推進課長、北沢丸子地域教育事務所長、柳沢真田地域教育事務所長、児玉武石地域教育事務所長、矢島丸子学校給食センター所長、池田城南公民館長、樋口上野が丘公民館長、倉澤博物館長

## 1 あいさつ

## 2 〈協議事項〉

### (1) 平成25年度教育行政に係る事務の点検及び評価について（教育総務課）

資料1により齋藤教育総務課長説明

山崎委員

懇話会委員の方からのご意見を拝見すると、どの意見も非常に前向きに捉えられていて、これからこうして欲しいというようなことが書かれている。とても参考になる意見がたくさん書かれているが、委員さんたちに事業の内容を説明する際の資料としては、この資料と3月に教育委員会で示された資料のほかに、具体的にこのようなことをやっているということがわかる資料は配付されているのか。

齋藤教育総務課長

3月に協議いただいたA3横長の資料は中間報告があり期末の評価があったもの。懇話会委員に提示したのは期末の評価の部分で、目標があり、取り組みがあり、どういうことでどのような評価をしたという中身のものをご覧いただいでご意見を頂戴した。そのほか、付属資料として昨年の実績や、講演会についてこんなことを行った、学校施設についてはどのような整備をしたかという細かな資料を提示している。

山崎委員

それを事前に委員さん方に送って確認していただいて、当日、会議で協議していただいでいるということでしょうか。

齋藤課長

あらかじめお送りして目を通してきていただいている。

山崎委員

意見としてとても細かいところまで入り込んだ意見が多かったので、私たちに配られた資料とは別に詳しい資料があるのかなと思った。今回、Cという厳しい評価が5つあるがCにならないためにはどうしたらよいか考えていくというような話が昨年の定例会でも出たが、非常に厳しい現実をしっかりと見た事業評価であると思う。これを市民の皆さんに公開するというときに当たり、Cになった部分を具体的にはこれからどうやっていけばBなりAになるかという具体的な方策がもう少しわかりやすく見られればよいと思う。懇話会でもそんなところをお伝えしていただければよいと思う。

小市委員

大変まとまっているが、限られたスペースの中で検討なり意見をまとめるのはなかなか難しい。例えば、1-①「学ぶ意欲を育む授業づくり」について、委員の皆さんから「予算措置が必要なことから難しい面もあるが」と随分配慮されたご意見をいただいている。その裏にはおそらくこうした事業はとても有効であると、できることであれば全部のところへ広げて欲しいという意識、あるいは気持ちもその中に含まれているのではないかと思う。ただ、現実を目の前にするとなかなか厳しい面もあるということ踏まえると、その下に意見に対

する考え方として、体験入学とかあるいは、小学校へ中学校の教員が休みをずらしながら来ていることなどが書いてあるが、基本的には小中の子どもたち、あるいは、上田市の子どもたちは、小学校、中学校の先生たちだけではなく、地域の皆さん全員で育てていくという意識をこれから大事にしていく必要がある。

それから、小学校から中学校をみたときの一番の大きな違いは授業時間で45分と50分と1日の生活単位が随分違うことである。意見に対する考え方の中にも体験入学のことが書かれているが、体験入学が1日とか場合によっては1週間というところもある。しかも、中学校に小学6年生が登校して1週間違う生活となってくることもあるので、そういったことへの対応も含めて今後より小中の連携を密にしていくこと、小中連携に努力するという方向性について書かれていけばよいのではないかな。

また、小中の学ぶ意欲を育む授業づくりについては、直接的に中学校の教員が小学校に行くということだけではなく、それをきっかけにして小学校、中学校の先生方が何を学ぶかということがとても重要である。例えば、中学校の場合どちらかというと、荒っぽいというか大雑把なところがある。それに対して小学校は非常に細やかで丁寧な対応をされている。そういう対応の仕方や子どもに対する話の仕方、そういうことを含めて学ぶ大事な機会になるのではないかな。そういう意味で今後、具体的などころでの取り組みは大きく限られてしまうかもしれないが、どこの小学校、中学校に行っても小中の連携が非常に密に行われているということを目指していくことが必要である。

寺島委員

総合評価は行政評価懇話会でなく担当課で評価しているのか。

齋藤教育総務課長

はい、自己評価である。

城下委員長

以前は、評価するときに4つの評価項目で8つの着眼点ごとに点数化して、その点数でA、B、C、Dを付けていたと平成22年のときに聞いたが、今も、同じやり方で付けているのか。

齋藤教育総務課長

評点を付けてというやり方は今はやっていない。

城下委員長

担当課ごとに、点数化してA、B、C、のランクを付けているわけではなく、担当課の課長が全体的に見て、評価しているのか。

齋藤教育総務課長

担当課によって違いがあるかもしれないが、私の評点付けはそういう観点である。

城下委員長

今は、点数化していないということではよいか。

齋藤教育総務課長

はい。

寺島委員

例えば、②-1「小中学校施設耐震化事業」について、Cという評価が付いているが、国の補正予算などの関係で遅れたといったようなことが原因だとすると、努力とは全然関係ないところで、できた、できないという話になる。そうすると、評価の付け方が難しいのではないか。例えばAというのはよくできているということだが、努力しなくても環境がよくできてしまったものもあると思う。できあがりだけを見るのではなくて、ある程度努力していた、客観的な状況のところには要因があってどうしてもクリアできなかったというようなものについては、厳しく査定することも結構だが、要因が違うところにあった場合、少し斟酌して、例えばCを付けるとかC´を付けるなど、Cだけでも実態はこうだった、厳しく付けたが要因は他者による要因が多いなど、少し言い訳になってしまうが、そのようにした方がいいのではないか。担当課の責任ではないような気がする。

城下委員長

外的な要因でそうなるのか、内部的な要因でそうなるのか全部総合的に考えてということで1年間の評価を付けなければいけないと思うが、その辺のところの線引きがあいまいである。先ほども聞いたが点数化せずに評価するのが難しいからなのか、点数化しなくなった理由はあるのか。

齋藤教育総務課長

私は25年度から教育総務課にきているが、私がきたときには既に点数化はしていなかった。

城下委員長

外的な原因は枠の外に置いて、それ以外のところをきちんと点数化して評価する方が経年で見たときには一定の評価もできるし、評価の基準がきちんとした上での評価が毎年されていく。

小山教育長

小学校施設の耐震化事業についていうと、④に書いてある国の補正予算に伴う追加補正のため年度内に完了しなかったとの問題ではなく、③に書いてある三中の耐震化事業ができなかった、手を付けられなかった、こちらがC評価になっている。④の追加補正で年度内に完了しなかったというのは、下の具体的な取り組みを見ていただくと、要は、非構造部材の耐震化のことである。これを前倒しした、というようなことで、この中にはできたものもできなかったものもあるが、そのことよりもむしろ③の第三中学校の耐震化事業について、9月に補正予算を議会で認めてもらったところが、地域の地域や保護者に対する説明会を行う中で、我々自身が計画変更をした。生徒全員が入れる仮設校舎をつくる、あるいは、北校舎については耐震補強ではなく改築にするというような計画変更をしてしまった。そのために手を付けることができなかった。当初から北校舎については、建て替え、生徒全員がその間に仮設校舎を使用できるよう建てるということで9月議会でそのような補正予算を出せばよかったが、9月議会における補正予算はそのような内容でなかった。したがって手をつけられなかったという状況である。

#### 寺島委員

そうすると評価のところは今言われた③の第三中学校の耐震化事業ができなかったというところが主な要因でC評価を付けたとわかるようにしてもらおうとよい。ほかはいいのでここが要因であるとわかるようにしてもらえれば、ホームページや外部に出たときに、ただC評価を付けるよりも一番のC評価になる要因はこうだったと記述された方がいいのではないか。

#### 西入教育次長

目標の設定の仕方については私も疑問を感じながら懇話会にも出席した。到達目標をちゃんと明示して評価しているかという点、それはない。いわゆるどこまで到達したらいいか、定量的なものや定性的なものについてあらかじめどこまでどうやるかということはこちらが持っていない。その辺が個人的にいろんな感度があって、角度が違えばCになったりしてしまうということがある。今後の課題だが、到達目標で定量的にどこまでかはかれるか、定性的なものだったら、どこまでどうしたらよいかということをおおきくあらかじめ設定した上でこの目標を定めていかないといけない。もっと言うと、そもそも目標にふさわしいのかというものは実際にはある。教育委員会だけでは決められない、先ほどの西部公民館であるとか神川地区公民館を整備しますといってもなかなかこちらだけではできないものもある。それを単年度でどうするようになって目標に掲げたけれども何を達成させるのか非常に難しい。目標に掲げる内容についても次年度以降精査していかなければならない。ご審議いただいたことも含めて考えていきたい。

#### 城下委員長

最初の目標の掲げ方のところから考えていただいて、なおかつ評価の仕方も以前のように点数化の方が、大変だと思うが、その方がその時々の人によって評価が微妙に左右されることはないと思う。その辺の全体的な流れ的なものをもう一度よく考えていただきたい。来年度からになるのか、26年度はスタートしているが、26年度の評価報告書を作る頃には少し反映されてくるのか。

#### 西入教育次長

中間で評価があるので、その辺で少しすり寄せていかなければならないと思う。

#### 城下委員長

いろんな意味での検討材料が残りつつ、日々事務をこなしていくのは大変であるがよろしくお願ひしたい。

#### 小市委員

基本的にはこれは3月の時点のところの評価をもとにして総合評価を出していると思うが、これが今度、たとえば上田市の議会にかけられて報告されて、そのあとホームページに出てきたときに、今までの基礎的な資料とかたくさんあるが、そのつながりの上に今回これが出ているというように一般市民の皆さんが見てくださればいいが、我々はそういうことを委員会の中で何回か論議してきたので承知はしているわけだが、ぱっと、初めての方が見たときに例えば総合評価でCとあったらどういう理由でC評価になったのか、これだけ見たときにはわからない。全ての資料を出したらそれで済むのかということなかなか難しいことだとは思いますが、できる限りそんなところが説明がつく形でお願ひしたい。

齋藤教育総務課長

工夫してみたい。

小市委員

1-③「地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり」の委員からの意見の中に「教員の意識改革や学校からの積極的な情報発信を進めていく必要がある」とあるが、このことは非常に大事なことである。例えば地域の皆さんが来てボランティアをやりたい、援助していきたいと思っても、実は学校の先生方はなかなかこういう中身をやって欲しいということを出さないと思う。出すことによって、そんなことも先生たちはできないのか、わからないのかということになってしまう。その辺をざっくばらんにお互いに出していられるような雰囲気を作っていくことは非常に大事である。先生は、できない、わからない、困っていることを言えない人種だとある人が以前どこかで説明されたが、そういうところもあるので、今は21世紀を背負って立つ子どもたちを育てるに当たり、単なる学校だけではなく、地域の皆さんのそれぞれ持っている素晴らしいノウハウを含めて、ぜひこういうことを助けてほしいと積極的に言い合える、言っていく環境を構築できるようにしていくことが必要である。

全委員 了承

## (2) 全国学力・学習状況調査の結果公表について（学校教育課）

資料2により倉島学校教育課長説明

城下委員長

学力・学習状況調査の結果は先生方全員が把握されているのか。それとも学校長だけか。

倉島学校教育課長

この結果については、数値として把握するということが目的ではなく、どこが自分のクラスは弱いのか、個々のものは見れば分かるがクラスではどこが弱いのか、あるいは学年ではどこが弱いのか、どこが優れているのかを踏まえて授業改善につなげるための調査と捉えているので、すべての先生方が当然理解している。それを見て分析をして改善していく目的である。

城下委員長

上田市としてはこういう方針でいくということだが、これは極端な話し、未来永劫この方針でいくのか。

倉島学校教育課長

これは今回、国の方針も変わったように、その時々大きな変動があれば当然見直していくものと考えている。

城下委員長

国の方針の変更があれば見直していくということか。

倉島学校教育課長

国の方針だけではなく、それは他市町村の条件や上田市の市民の意向もある。いろんな状

況を総合的に考えて、こういうふうに変えていったほうが良いという判断になるかと思う。これで固定化するという事はないと考えている。

#### 小市委員

基本的には、これでよいと思う。2「上田市教育委員会の方針」の(4)には、「学校は調査結果の分析を踏まえた今後の改善策を併せて示すなどの工夫をすること」とあるが、この辺がやはり少し表現としてはぼやけたものがあるが、外に出るものとしては仕方がないと思う。これをどう受け止めていくかということが大事なことで、我々が指導主事の先生方と学校訪問をさせていただいたときに、調査結果を受けてどう日々の授業改善に結び付けているのかという厳しい眼差しで見ると、創意工夫する必要があるというところが見える。今これから特に子どもたちが語るとか自分の考え方を述べていく、友達同士で意見がぶつかり合ってそれをどうやって合意を形成して自分たちの考え方をきちんとまとめていくか。そういう意味で子どもたち同士が語るとか、意見を交換するとかそういう姿が非常に重要になってくるのではないか。そういう意味でも授業改善に活かすというのは、言葉にするとそれだけだが中身をかなり充実させていく必要がある。

#### 城下委員長

学校訪問をさせていただいて、いろんな学校、先生方の授業を見ていると、先生方の指導力に明らかに差がある。実際、子どもたちもそれに伴って、どう違うかはダイレクトな因果関係は私たちにはわからないが、学力にも大きく差が出ている。確かに、生の数字が出て数字だけがひとり歩きするような状況に置いてしまうと、学校の序列化や、学力テストのための対策をとるようになったりと、いろんな弊害が起きてくるようになるかもしれない。けれどこの方針において進むことで学校の先生方がある意味かばうような事になってはいけない。

生の数字を目の当たりにすると、とても危機感がダイレクトに伝わってくる。このままではいけない、何か手立てをしなくてはというお尻に火が付く状況になるはず。そういう面をあまりオープンにしすぎてもどうなのかとの意見はあると思うが、今後の改善策にしっかり活かしてもらいたいという事は切実に思う。

佐賀県の武雄市では、学校ごとに正解率が一覧表になって出ている。そういうものを見たときに、これがもし上田市で行われたとすると、上田市の小中学校がずらっと並んで正解率何パーセントでしかも全国平均を上回っているか否かがきれいに色付けされて一覧表になっているわけで、そう考えるととても衝撃的であった。そういう衝撃とともに学校の先生方を見ると本当に切実感というか、なんとかしなければという気持ちになってくださると思う。そして、地域や保護者もそれを共有し、いい方向に進むようにするという手立ても必要ではないか。

先ほど倉島学校教育課長が言ったように、いろんな情勢の変化はあると思う。保護者へのアンケートもそうだが、武雄市でも6割、7割近くの保護者が公表に賛成というアンケート結果が出たので公表に至ったと書いてあった。上田市の保護者の方々はどう思っているのかわからないが、そういった他市でのデータなどもあるので、ぜひ、教育委員会としてはそういった動きに敏感に、そして軸足をしっかりとし、今後考えていかなければならないということをお願いしたい。

#### 小山教育長

これは以前、校長会には出してあるが、25年度については学力調査の結果をクロス集計しているものがある。これは2009年にお茶の水女子大学が、長野県の教育委員をしてい

る耳塚さんが中心となって一部の資料を使ってクロス集計の結果を出した。昨年度は全部の全国の調査結果をクロス集計している。その結果予想されていること、あるいは予想されていたことであるが、経済的に恵まれた家庭の多い学校のテスト結果は高い。あるいは、家庭的に恵まれた子の成績は高い傾向にある。こういう結果が出ている。ということは学校間格差というのは義務教育の場合は、ある程度家庭の経済格差を反映しているという可能性が非常に強い。義務教育についていうと行く学校が基本的には決められている。こんなことも考慮していく中では、やはり学校の数値をそのまま公表するというのは、今の時点では避けるべきであると考えている。

それから、この基本的な考え方について、もう少しわかりやすい文章にした方がよい、文章がねじれていてわかりにくい。上田市の教育委員会の方針についていうと、(1)の文章は市教委は、で始まっていて、(2)の文章は学校は、ということで始まっている。では(3)は何なのか。例えば(2)と(4)はまとめられるのではないか。それから(3)の「公表に際しては、調査の趣旨・目的及び調査結果が学力の特定の一部分であることを併せて明示すること」についてはどういう意味かわからない。学力調査によってはかれる学力というのは学力の一部分。しかし、あえてこのようなことをいう必要があるのか。これはかつての学力論議、学力論議というのは、はかれる学力というのは氷山の一角でいってみれば海水より上に出る部分しかはかれない、実はもっと底には広大なものがあるという議論があった。それはほとんど意味がない。そういう意味で、調査の趣旨・目的はいいのだが、調査結果が学力の特定の一部分であることを併せて明示することは不可能である。

#### 倉島学校教育課長

私なりに理解していたのは、この調査は小学校6年生と中学校3年生だけである。それから科目も国語と算数だけである。そのごく一部の学力結果をもって全体の学力を表すかのような印象を与えてはいけない。したがってこのように表記したらどうかということで理解してきたが、教育長が言うようになってもいいのかなという感じはする。委員のご意見をお聞かせいただければ、この場で削除をしたい。私の理解はそういうことである。

#### 城下委員長

これがこのままホームページに載るのか。

#### 倉島学校教育課長

それはない。

#### 山崎委員

方針について、一保護者が教育委員会の方針を知りたいというときはどのようにしたら聞けるのか。これが決まって、公表するのかもしれないのかを一保護者が知りたいとなったときはどうするのか。

#### 倉島学校教育課長

上田市はどうするのかという質問があれば、それは、公表するのかということと資料をどうするのかということのおそらく問い合わせになるかと思う。それは、方針に基づいて説明していく。このお決めいただいた方針は、主には私どもがこれに基づいてやっていくということと、学校に今度はこういう方針でやってくださいと伝達をするもの。学校はこれに基づいて協議してくださると、このようなシステムをとることになる。



#### 小市委員

先ほど、教育長から指摘のあった（３）について、これを挙げてくるほど学力とは何かということになる。いろんなことを含めて考えていくと、公表に対して基本的な姿勢としては（１）、（２）、（４）でいいのではないか。そこへ（３）が入ると方針としては非常に大きなものがこの中には入っているので、それらを説明していかないとわからないのではないか。見える学力とは何か、見えない学力とは何か、学力問題になってくる。避けた方がよいのではないか。

#### 城下委員長

方針としては、いらないような方針としても、実際学校ごとに公表するときには、少しこういった面の注釈を付けておかないと、保護者はその傾向だけに対して真に受けてそこだけダイレクトに受け止めてしまう。先ほど倉島学校教育課長が言ったように小６と中３だけであるし、その子どもたちは毎年変わっているわけであって、それだけで学校が評価されているわけではないということを、学校側の先生方が公表するときには保護者懇談会で説明されると思うが、そこを添えて話をされたほうがよい気がする。方針としてはいらないような気がする。

#### 寺島委員

倉島学校教育課長と同じように理解していた。補足説明でこれが全てではないということをごどこかで触れて、誤解がないようにしていただければいいのではないかと。

#### 浪方教育参事

学力調査が全国全てで行うということになってきたときに、やはり今ご指摘いただいたように、教員自体も揺れた。点数を求められそして公表を求められる、そういう中で、点が全てではないということ、皆さんが共通の理解として持っていた方がいいと、細かな学力論争とかではなく、この部分はこれをもって序列化につながってはならないとの明確なアピールである。私は方針とまではいかななくても、これは全員が共通理解していただきたいと思っている。したがって校長会を通じて伝えるときには必要であると考えている。当然、保護者に説明するときその一文は重要ではないかと思う。

#### 小山教育長

そうではない。なぜ、国語、算数でやっているのか。これは、全教科でやれば全教科でやってもいい。しかし、国語と算数で行うことによってある程度そのものをもって学力が判定できる。学力調査という名目で国語と算数で行っている。これはやはり学力を判定している。ただ、国の方針で例えば理科教育に力を入れたいそのときには理科を入れる。いずれおそらくすると、中学校には英語が入ってくる可能性がある。英語を強化しようという国の動きがある。教科についていうならば、小学校は国語と算数、中学校は国語と数学でやっているのは周知の事実であり、これは国語と算数の結果であって学力全体を示すものではないことわかるのはかえっておかしい。

#### 城下委員長

この場で必要がないということであれば（３）は削除と言ったがどうするのか。

浪方教育参事

学力であるということを教育長が言ったが、学力・学習状況調査であるという日本語はそのとおり保護者も教員も受け止めている。先ほどからお話したように、受け止め方に違いがあってはならないという、そういうことを私は申し上げた。つまりここに方針としてこれを公表するわけでもないし、今後ホームページに出るわけでもない。ですので、方針としてなくても私もそれでいいが、学校なり、教員、あるいは保護者に説明するときの心の中で、私どもが校長先生方とお話するときには、こういった考え方についてはお伝えしているということは必要ではないかということをお話申し上げた。

城下委員長

このところではあえて必要ないということよろしいか。

小市委員

基本的に皆さんが承服できるのであれば、(1)、(2)、(4)を(3)にして、(3)のところは、なおを付けて、なお、公表に際しては、調査の趣旨・目的等十分配慮することという一文を付けて、その中で校長会で説明するときの中身の文言になっている具体的な中身を説明していただくという形でどうか。

城下委員長

次回、持ち越した方がよいか。

寺島委員

外に出るものではないのでこれで承認してもよいのではないか。

倉島学校教育課長

委員の皆さんがおっしゃったことを私の方で整理させていただいて、考え方についてはまた協議会でお渡ししたい。基本的な考え方は小市委員が言われたように、(1)、(2)、(3)については、項目としては残さない。ただ、(2)のところ個々の学級名や数値は一切公表しない。なお、公表に際しては、調査の趣旨・目的及び調査結果が学力の特定の一部分であることに配慮するというような文言を入れさせていただいて、(4)を(3)に繰り上げるといってほしい。

城下委員長

よろしくお願ひしたい。市町村で公表の仕方についてはとりあえずどうぞという感じで、ある意味国から振られたという感じが無きにしてもあらずだが、公表している地域もある。こちらは公表せずにこういう方針でやっている。テスト対策がどんどん加熱して大変なことになってしまうのか、そうなる前に歯止めをするのか、いろいろまだまだ波紋が広がりそうな気がするところである。

全委員 了承

### (3) 上田市民会館緞帳の譲渡について (文化振興課)

資料3により浅野文化振興課長説明

城下委員長

譲渡に係る経費負担は受け取り側の負担であるが、かなりかかると思うがだいたい、いくらぐらいか。

浅野文化振興課長

特に算出はしていないがそれなりにかかると思う。

寺島委員

芸術的なものであったら学校の体育館などいろいろ市の関係施設があると思うがそういうところで使えないのか。

浅野文化振興課長

順番として庁内で照会しているところである。重さが700kgということで、その辺が気になっている状況である。

山崎委員

譲度しても十分使用できるものなのか。

浅野文化振興課長

使い方次第である。

城下委員長

美術品としての価値はどのくらいか。

浅野文化振興課長

当方で製作費500万である。今ですと10倍ぐらいではないか。

全委員 了承

### 3 〈報告事項〉

#### (1) 平成26年度夏休み上野が丘わいわい塾の実施について（上野が丘公民館）

資料4により樋口上野が丘公民館長説明

全委員 了承

#### (2) マラソン大会・駅伝大会の開催について（スポーツ推進課）

資料5により滝沢スポーツ推進課長・児玉武石地域教育事務所長説明

全委員 了承

#### (3) 自然運動公園の流水プール防水シート剥離問題について

資料5-1により滝沢スポーツ推進課長説明

城下委員長

付添いの保護者は有料か。

滝沢スポーツ推進課長

使用するプールの区別がつかないので、子どもだけを無料とする。

全委員 了承

**(4) 平成26年度友好都市ブルームフィールド市郡交流事業について（丸子地域教育事務所）**  
資料6により北沢丸子地域教育事務所長説明

全委員 了承

**(5) 第52回信州上田丸子夏期大学について（丸子地域教育事務所）**  
資料7により北沢丸子地域教育事務所長説明

全委員 了承

**(6) 行事共催等申請状況について（学校教育課・生涯学習課・文化振興課・スポーツ推進課）**

城下委員長

文化振興課の新しい事業の「巨匠とよばれた作家たち」は、場所はどこでやるのか。

浅野文化振興課長

資料を持っていないので、次回説明したい。

全委員 了承

#### 4 〈その他〉

- ・池田城南公民館長より公民館だより説明

寺島委員

真田丸の関係で、市に専門部署ができたということだが、これに関連して公民館もそうであるが、公的な団体も私的な団体も商店街もそれぞれにイベントなどをやっている。総合的なインフォメーションセンターのような形でどこかに統括してもらわないと、関係した催し物などがどこで、いつ、何があるのかトータルでわかるように掌握して、掲載できる仕組みがないと、それぞれが勝手にあちこちでやるようになってしまう。活性化にはいいが、それぞれの部署では一生懸命やっていることでも、トータルで見ると上田市としては構成されていないような気がする。ぜひ、専門の部署などで市民の皆さんにわかるように広報できる形をお願いしたい。

西入教育次長

担当課と詰めて早急に対応したい。

城下委員長

課の名前は何かというのか。

西入教育次長

シティプロモーション推進室である。政策企画局の中に新しくできた。真田丸に限らず、いろいろプロモーションするということである。

全委員 了承

- ・社会教育委員との懇談会について  
岩倉生涯学習課長より説明

全委員 了承

閉会